

Ⅲ 自己評価（自己肯定感）からみた子どもの特徴

1 自己評価に関する項目の分析

(1) 「自己評価度」について

2008年の調査では、「自分のことが好きだ」「自分は周りの人から大切にされている」「だれかのために何かをしたい」「社会に役立つことをしたい」の4つの質問を得点化して、「自己肯定感」とし、その得点の高低で分類した群について、分析を行った。

一方、本調査では、以下の5つの質問（Q28～Q32）を設定した（回答の選択肢は4段階）。

- Q28 あなたは、自分が好きですか。
- Q29 あなたは、自分は何をやってもだめだと思いますか。
- Q30 あなたは、自分は親や周りのおとなから大切にされていると感じますか。
- Q31 あなたは、自分は友だちから大切にされていると感じますか。
- Q32 あなたは、毎日が楽しいですか。

これらの質問は、自己受容（Q28）・自己肯定感（Q29）・他者からの受容感（被受容感）（Q30・31）・精神的安定（Q32）を含んでおり、2008年度の「自己肯定感」とは、内容的に異なる部分もあるため、今回は「自己評価度」として、これらを得点化し、分析を行っていく。

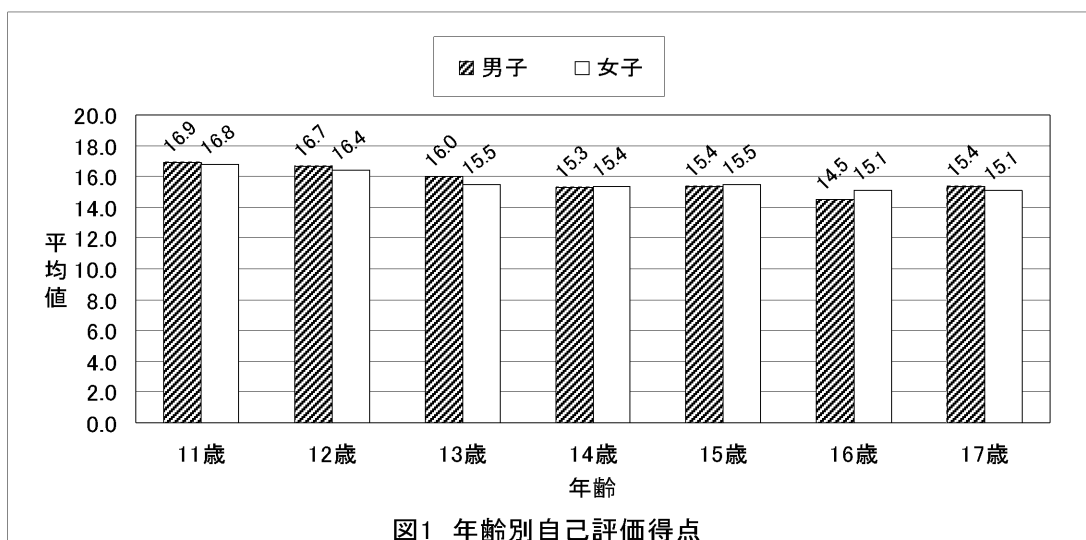
(2) 因子分析での確認

自己評価度を使っての分析に入る前に、これらの5項目が本当に自己評価度を測定していると考えてよいかどうについて、統計的な確認を行った。全てのデータ（数値が高いほど自己評価度が高いことを表すように調整した）を用いて、分析（主因子法による因子分析）を行った結果、今回の調査で使用された5項目の合計を「自己評価度」として、以降の分析に使用することが可能であると考えられた。

(3) 自己評価得点によるグループ分け

5項目の合計得点を自己評価得点とし、それについて年齢及び性別の影響との関連を検討した。

その結果、自己評価得点について性別の影響はみられなかった。つまり、男子と女子で自己評価得点の現れ方に差はみられなかった。一方、年齢については、小学生グループと中学生・高校生グループで、自己評価得点の平均値に差がみられた（図1参照）。



そこで、それぞれについて、得点の上位 20%グループを自己評価度の高いグループ、下位 20%グループを自己評価度の低いグループ、残りを中間グループとして、3つのグループに分けた。各グループに含まれる人数を表 1 に示す。以降は、主にこの 3 グループを基準として考えていく。

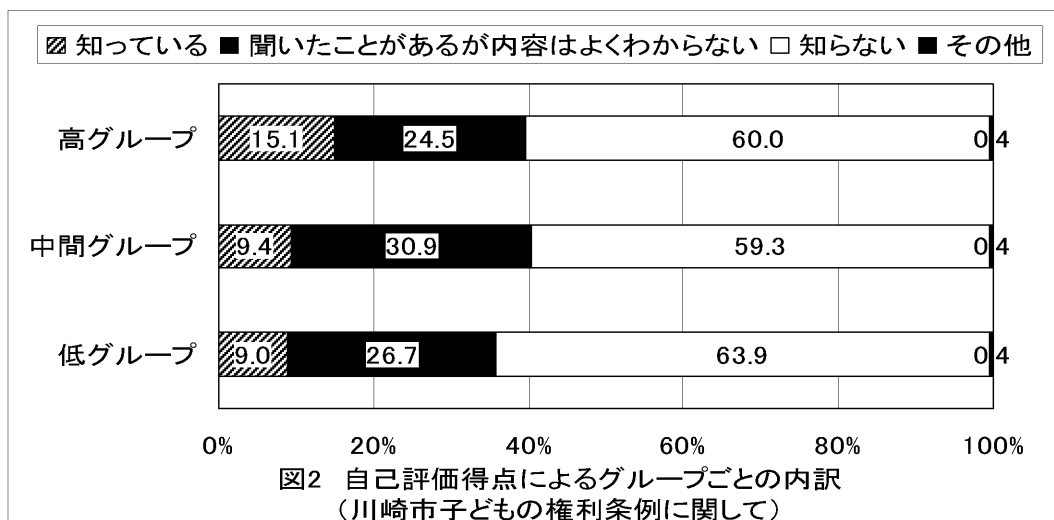
表 1 自己評価得点による各グループの人数

		年齢グループ		合計
		小学生	中・高生	
得点別グループ	高グループ	109 (19点以上)	156 (18点以上)	265
	低グループ	132 (15点以下)	134 (13点以下)	266
	中間グループ	210	353	563
合計		450	643	194

2 自己評価得点との関わり

(1) 川崎市子どもの権利条例を知っているか否かと自己評価得点の関連

<Q 1-1 川崎市子どもの権利条例を知っていますか>



川崎市の子どもの権利条例を知っているかどうかについての質問の回答は、図2に示すとおりである。この質問に関しては、各グループの回答に違いはみられなかった。

(2) 「生活」に関する質問と自己評価得点の関連

<Q 4～Q 7>

Q 4からQ 7までの4つの質問は、回答が4段階（ある・ときどきある・あまりない・ない）になっている。そこで、これらの質問に対する答えを「あてはまらないほど高得点」になるように得点化し、それぞれの得点についてグループの影響を検討した。

結果は表2に示すとおりであり、自己評価得点の低いグループほど、これらの質問内容にあてはまる経験があることがわかる。

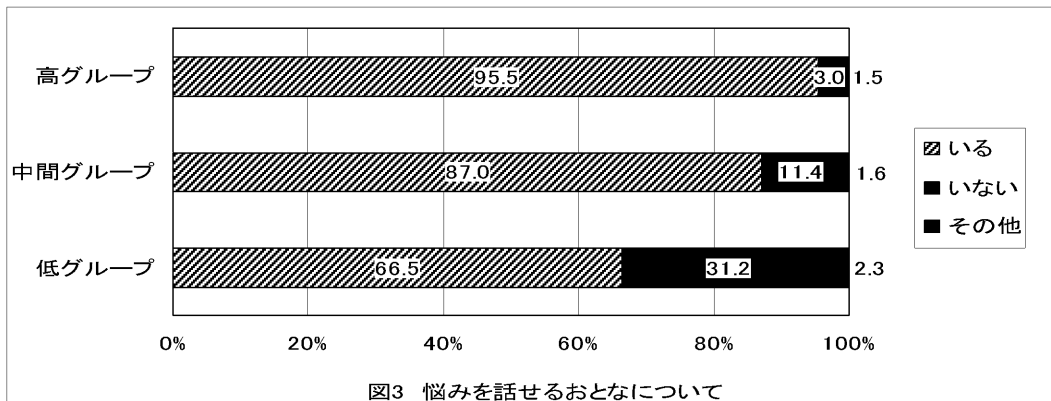
表2 自己評価得点によるグループごとの「生活」に関する質問の回答

質問 (得点は、あてはまらないほど高得点)	回答の平均得点			統計的有意差
	高グループ	中間グループ	低グループ	
Q4 大人から叩かれたり殴られたりしているか	3.73	3.58	3.28	高>中>低
Q5 大人から心を傷つけられる言葉を言われるか	3.71	3.50	3.08	高>中>低
Q6 大人から性的に嫌なことをされることがあるか	3.95	3.96	3.83	高=中>低
Q7 他の子どもからいじめられることがあるか	3.88	3.68	3.40	高>中>低

つまり、自己評価得点が低いグループでは、中間グループおよび高いグループよりも「大人から叩かれたり殴られたりしている (Q 4)」「大人から心を傷つけられる言葉をいわれる (Q 5)」「他の子どもからいじめられることがある (Q 7)」という回答が多くみられ、高いグループは最も少ない。また、「大人から性的に嫌なことをされる

ことがある (Q6)」という回答についても、中間および高グループよりも低グループのほうが多くみられた。

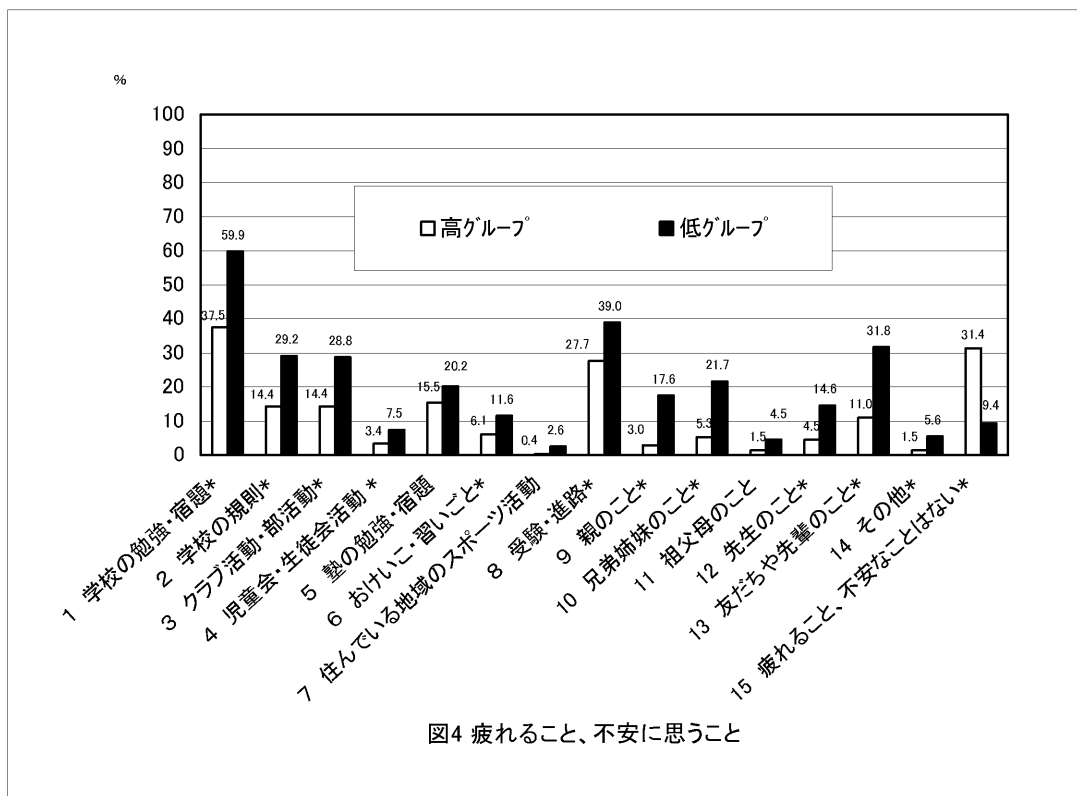
<Q8 安心して自分の気持ちや悩みを話せるおとなが少なくとも一人はいますか>



回答は、図3に示すとおりであり、安心して悩みを話せるおとながいるかどうかについては、グループ間に差がみられ、自己評価得点が低いグループは、「話せるおとながいない」割合が高いと考えられる。

<Q9 疲れること、不安に思うことがありますか (複数回答可)>

図4は、自己評価得点の高いグループと低いグループの各項目の選択の割合を示したものである。*のついている項目は、グループ間で差がみられたものである。ほとんどの項目で、自己評価得点の低いグループの方が、疲れや不安を感じていることがうかがえる。



(3) 「相談するところ」に関する質問と自己評価得点の関連

<Q11 困ったり悩んだりしたときにどこに？だれに？相談するか（複数回答可）>

図5は、「どこに」の場所に関する選択肢それぞれについて、自己評価得点の高いグループと低いグループの各項目の選択の割合を示したものである。*のついている項目は、グループ間で差がみられたものである。「どこに」の場所に関する選択肢については、選択された割合が非常に小さい選択肢が多かったが、「川崎市総合教育センター」については、自己評価得点の高いグループの方が高い割合を示しており、一方で「どこにも相談しない」は、低いグループの方がより高い割合を示している。また、グループ間での差は見られなかったが、「かわさきチャイルドライン」は、自己評価得点の高いグループにおいて他の選択肢に比べて選択されている割合が高い。

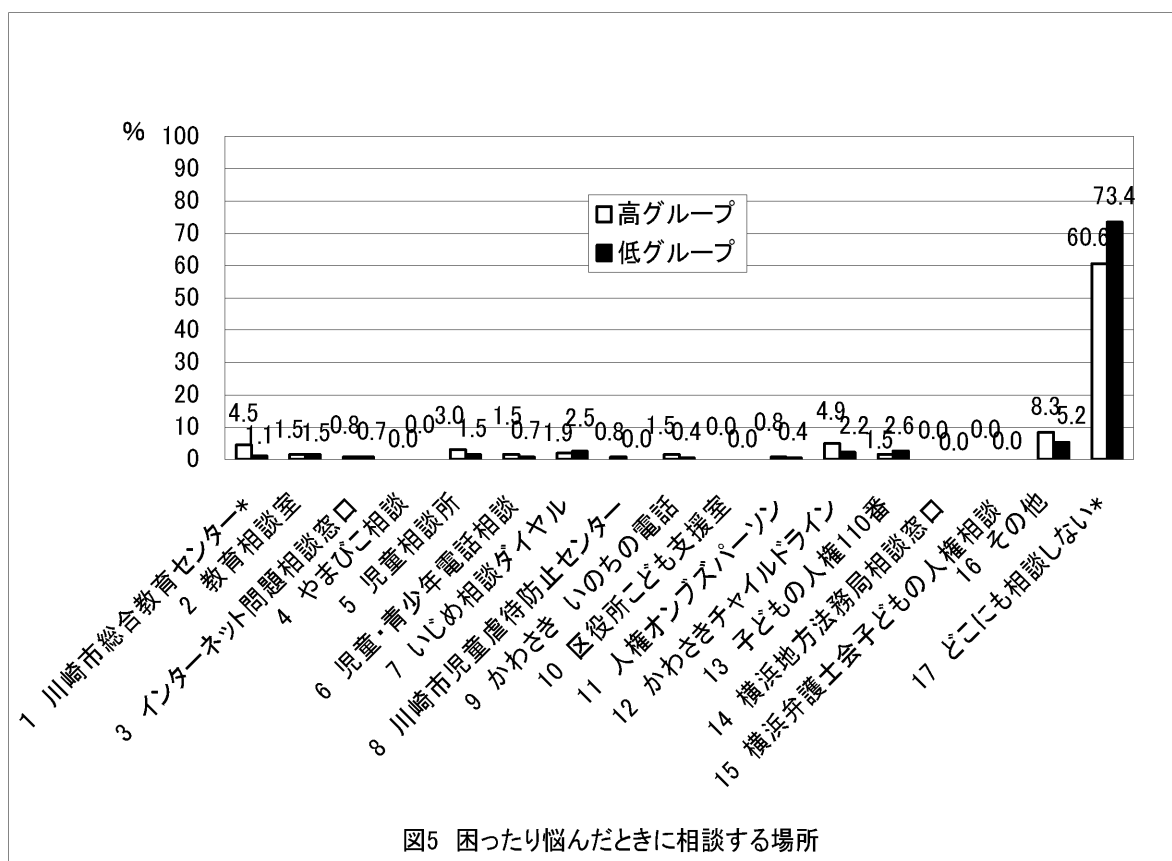


図5 困ったり悩んだときに相談する場所

また、図6は、「だれに」の相談相手に関する選択肢それぞれについて、自己評価得点の高いグループと低いグループの各項目の選択の割合を示したものである。*のついている項目は、グループ間で差がみられたものである。ほとんどの項目で、自己評価得点の高いグループの方が高い割合を示しており、困ったり悩んだりしたときに誰かに相談していることがわかる。一方で、自己評価得点の低いグループは、どこにも、誰にも相談しないという回答が有意に多かった。

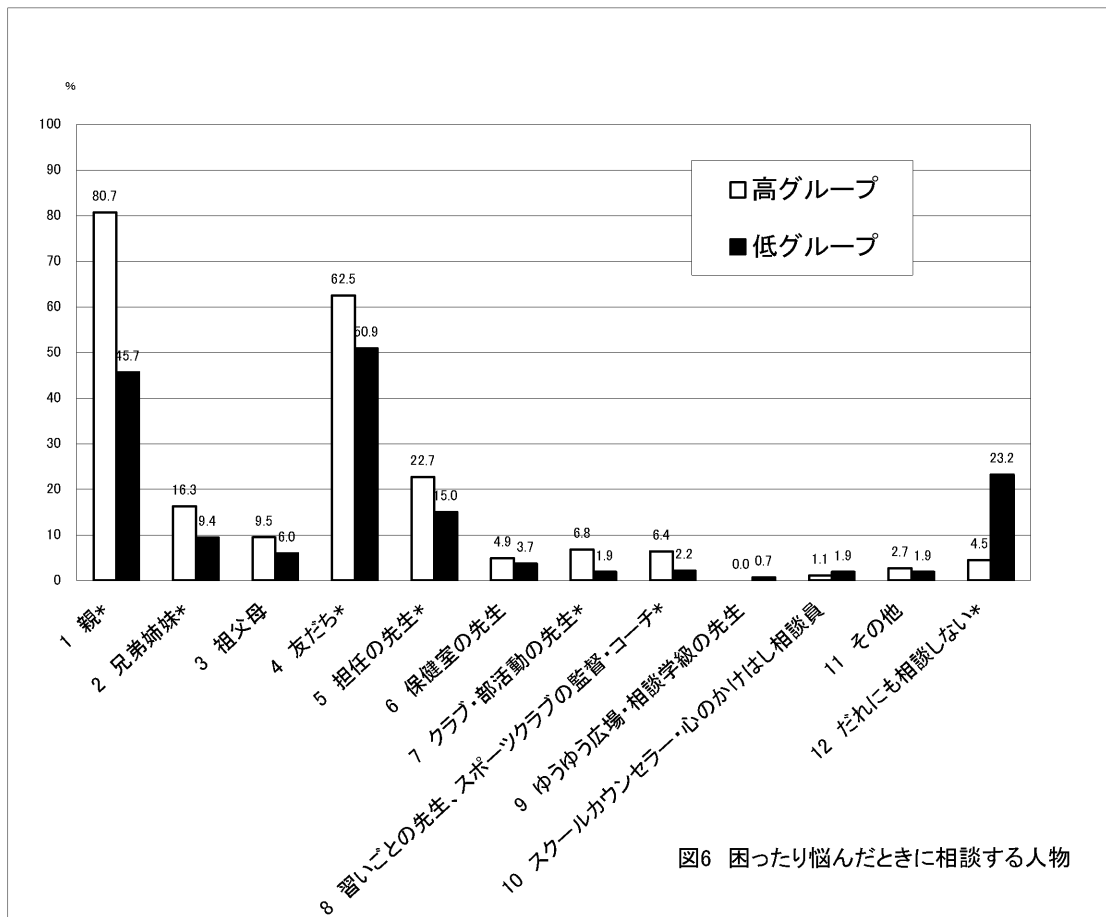


図6 困ったり悩んだときに相談する人物

(4) 「周りのこと」に関する質問と自己評価得点の関連

<Q12・Q13, Q16~Q19, Q22~24, Q26・27>

質問に対する答えを「あてはまらないほど高得点」になるように得点化し、グループの影響について検討した。結果は表3に示すとおりであり、逆転項目であるQ26を除くと、自己評価得点の低いグループほど、これらの質問内容にあてはまらないと答えていることがわかる。

つまり、自己評価得点が高いグループでは、中間グループおよび低いグループよりも「学校の行事や話し合いに参加している (Q12)」、「学校の勉強がよくわかる (Q16)」と答えている。また、「学校で休み時間や放課後、安心して好きなようにすごせる (Q17)」、「家で話を聞いてもらえる (Q22)」、「家で何かを決めるとき、大人は子どもの意見を聞いている (Q23)」、「遊んだり休んだり自分のことをする時間が十分にある (Q24)」、「文化・国籍等の違いに関わらず子どもは大切にされていると思う (Q27)」、「男女の違いで悩んだり嫌な思いをすることはない (Q26)」という回答も他の2つのグループよりも多く見られた。さらに、「学校の行事を決めるとき、先生は子どもの意見をきいている (Q13)」、「地域の表示や話し合いに参加することがある (Q18)」、「地域の行事などを決めるとき、大人は子どもの意見を聞いている (Q19)」という回答は、自己評価得点が高いグループよりも多く見られた。

表3 自己評価得点によるグループごとの「周りのこと」に関する質問の回答

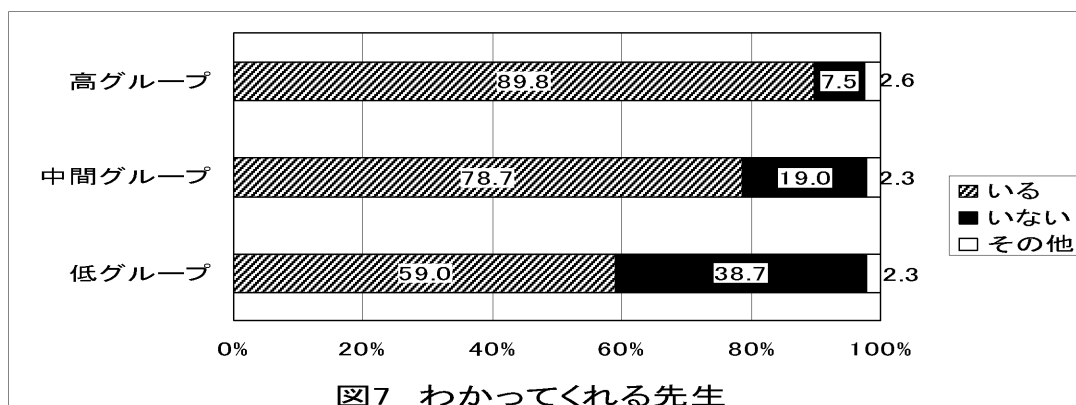
質問（得点は、あてはまらないほど高得点）	回答の平均得点			統計的有意差
	高グループ	中間グループ	低グループ	
Q12 学校の行事や話し合いに参加しているか	1.26	1.44	1.77	高<中<低
Q13 学校の行事を決めるとき、先生は子どもの意見を聞いているか	1.24	1.38	1.65	高=中<低
Q16 学校の勉強がよくわかるか	1.57	1.87	2.15	高<中<低
Q17 学校で休み時間や放課後、安心して好きなようにすごせるか	1.10	1.23	1.65	高<中<低
Q18 地域の行事や話し合いに参加することがあるか	3.18	3.30	3.42	高<低
Q19 地域の行事などを決めるとき、大人は子どもの意見を聞いているか	2.33	2.67	2.70	高<中=低
Q22 家で話を聞いてもらえるか	1.04	1.20	1.50	高<中<低
Q23 家で何かを決めるとき、大人は子どもの意見を聞いているか	1.13	1.38	1.79	高<中<低
Q24 遊んだり休んだり自分の好きなことをする時間が十分にあるか	1.36	1.53	1.75	高<中<低
Q26 男女の違いで悩んだり嫌な思いをすることがあります	3.75	3.42	3.14	高>中>低
Q27 文化・国籍等の違いに関わらず子どもは大切にされていると思うか	1.60	2.03	2.33	高<中<低

※Q26は、逆転項目のため「悩んだり嫌な思いをすることがない」と答えるほど得点が高くなる。

一方で、自己評価得点が低いグループではこれらの質問において、他の2つのグループよりもあてはまらないという回答、つまりは「学校の行事や話し合いに参加していない(Q12)」、「学校の勉強がよくわからない(Q16)」、「学校で休み時間や放課後、安心して好きなようにすごせない(Q17)」、「家で話を聞いてもらえない(Q22)」、「家で何かを決めるとき、大人は子どもの意見を聞いていない(Q23)」、「遊んだり休んだり自分のことをする時間が十分でない(Q24)」、「文化・国籍等の違いに関わらず子どもは大切にされていると思わない(Q27)」という回答が多くみられた。また、「男女の違いで悩んだり嫌な思いをすることがある(Q26)」という回答も他の2つのグループよりも多く見られた。さらに、「学校の行事を決めるとき、先生は子どもの意見をきいていない(Q13)」、「地域の行事や話し合いに参加することはない(Q18)」、「地域の行事などを決めるとき、大人は子どもの意見を聞いていない(Q19)」という回答も、自己評価得点が高いグループよりも多く見られた。

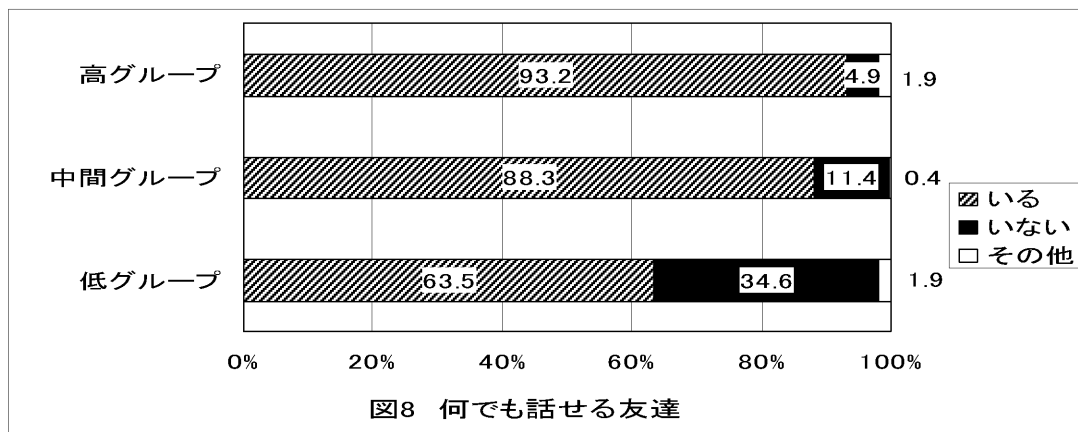
<Q14 学校にあなたの話を聞いてあなたのことをよくわかってくれる先生がいますか>

回答は、図7に示すとおりであり、学校に話しを聞いてくれて、自分をわかってくれる先生がいるかどうかについては、グループ間に差がみられ、自己評価得点が高いグループは、「わかってくれる先生がいない」割合が高い。



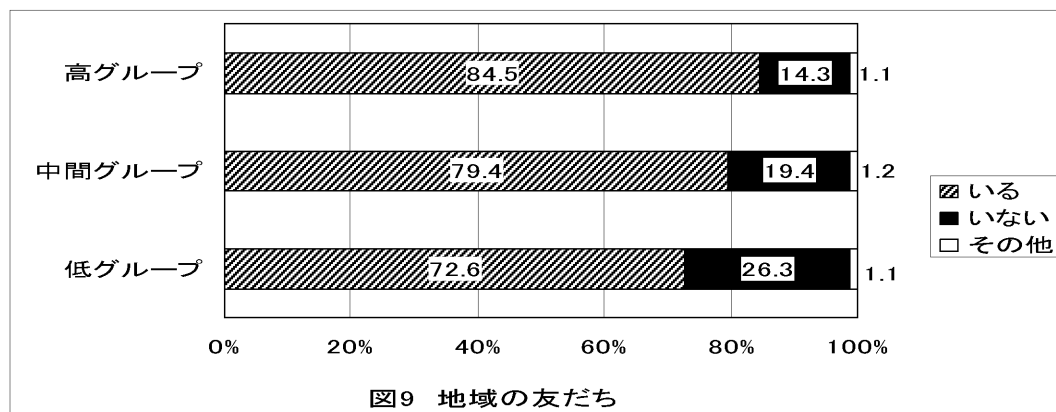
<Q15 学校に何でも話せる友達がありますか>

学校に何でも話せる友達がいるかどうかについても、自己評価得点が低いグループは、有意に「話せる友達がない」割合が高い（図8参照）。



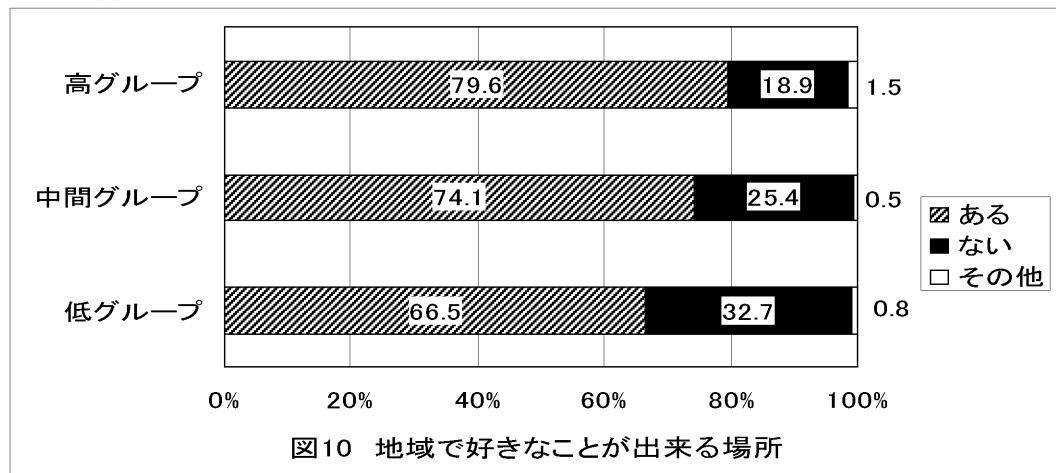
<Q20 地域（学校外・施設外）に一緒に遊んだり話したりする友達がありますか>

地域でも、自己評価得点が低いグループは有意に「話せる友達がない」割合が高い（図9参照）。



<Q21 地域に、安心して自分が好きなことをする場所がありますか>

ここでも、自己評価得点が低いグループは、有意に「地域に、安心して好きなことをする場所」がない割合が高い（図10参照）。



<Q25 ホットできる場所はどこですか（複数回答可）>

それでは、子どもたちがホットできる場所はどこなのかという点についての回答は、図11のとおりである。

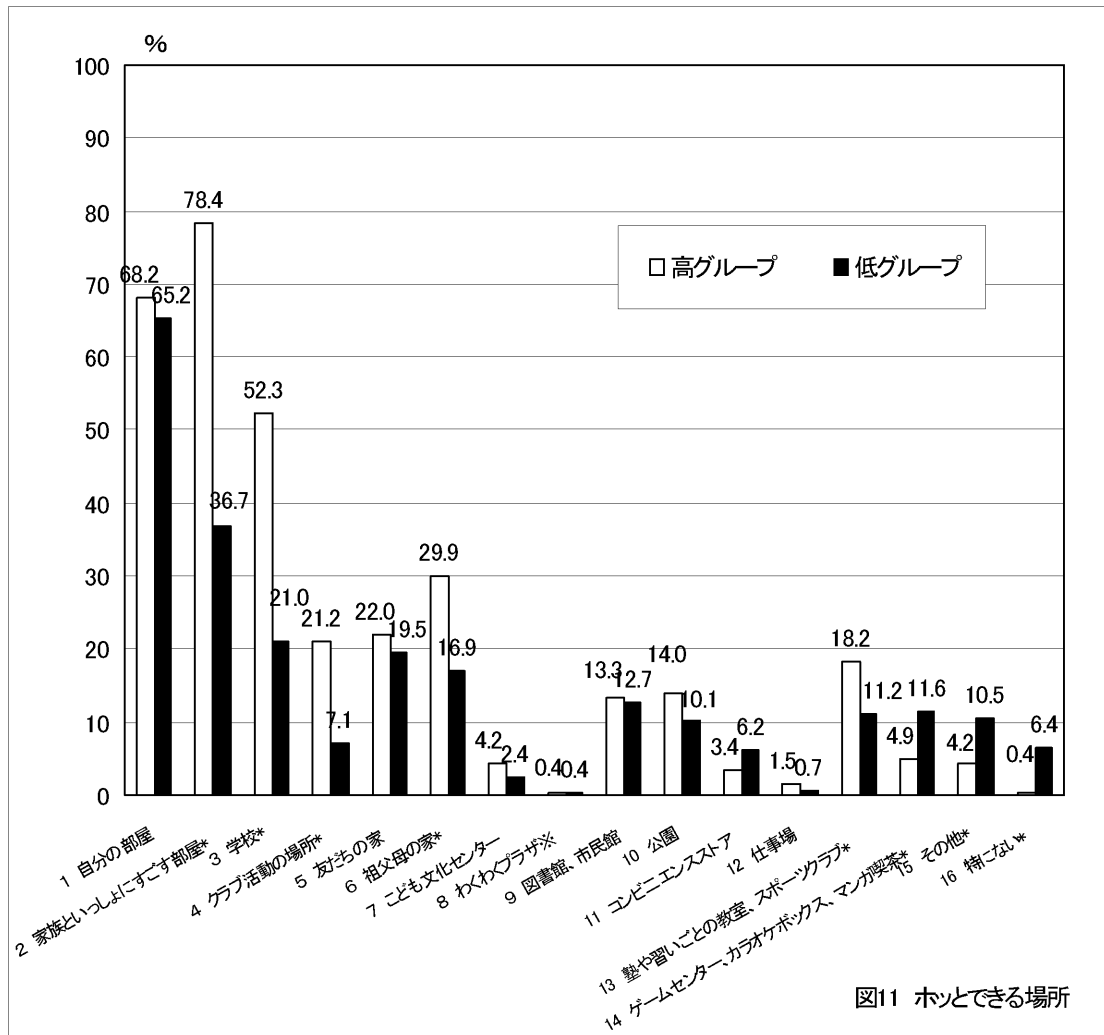


図11 ホットできる場所

※わくわくプラザは、わくわくプラザを開設している小学校に在学、または学区内に在住の小学1年生から6年生までを対象としたもので、事前に申し込み、登録が必要で、利用できる年齢および対象が限られている施設である。

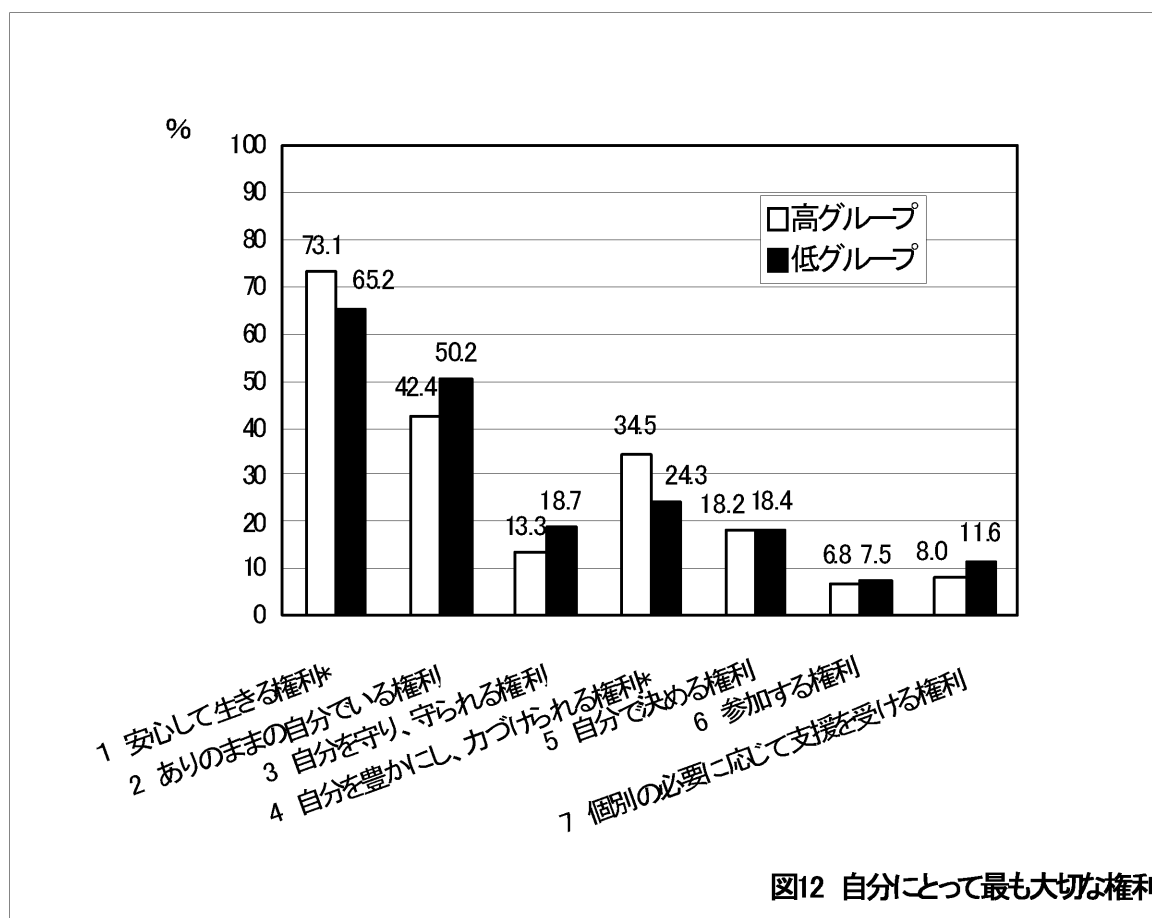
*のついている項目は、グループ間で差がみられたものである。これをみると、自己評価得点の高いグループは、家族と一緒に過ごす部屋や学校といった場所がホットできるとしているが、低いグループは、ゲームセンターやカラオケボックス、マンガ喫茶といった場所がホットできる、もしくはホットできる場所は特になしという回答が自己評価の高いグループよりも多い。

(5) 自分にとって大切な子どもの権利と自己評価得点の関連

＜Q33 自分にとってもっとも大切だと思う権利はなんですか

(あてはまるもの2つを選択)＞

図12は、それぞれの権利について、各グループでどれだけの割合の子どもたちが選択したかを示したものである。*のついている項目は、グループ間で差がみられたものであり、自己評価得点の高いグループは、「安心して生きる権利」および「自分を豊かにし、力づけられる権利」を得点の低いグループよりも、多くの子どもが選択している。



3 川崎市子どもの権利条例についての自由記述と自己評価

表4は、条例について、Q1-4「授業や先生の話で印象に残っていることを自由に書いてください」の質問に対する自由記述の中から、「権利」という言葉を含む記述を抜き出し、条例の認知度および自己評価別にまとめたものである。

なお、この分類は、条例を「知っている」もしくは「聞いたことがあるが内容はよくわからない」と答えた子どものうち、自由回答があったものについてのみ行っており、対象者は知っている群30名(小学生21名/中高生9名)、聞いたことがある群39名(小学生18名/中高生21名)、の合計69名であった。

条例について、「知っている」と回答した小学生 21 名のうち約 62%にあたる 13 名が自由記述で「権利」について記述しており、その内訳は自己評価が高いグループに分類された子どもが 9 名と最も多く、中間グループは 3 名、低いグループは 1 名のみであった。中高生では 9 名中 4 名 (44.4%) が「権利」について記述し、全員が自己評価は中間グループであった。一方、「聞いたことがあるが内容はよくわからない」と回答した小学生 18 名でも、約 67%にあたる 12 名が「権利」について記述しており、自己評価については、低いグループが 3 名、中間グループが 9 名であった。中高生では、21 名中 6 名(28.6%) と「権利」の記述自体は少ないが、自己評価が低いグループに分類される子どもは 1 名のみで他の 5 名は高いグループであった。全体として、自己評価が低いグループは、自由記述での「権利」の記述が少なかった。

表 4 授業や先生の話で印象に残っていることへの回答の中で「権利」を含む記述

	年齢群	性別	認知度	自己評価 グループ	自由記述例
1-1	小学生	男子	知っている	低	人はみんな自由という権利を持っている
1-2	小学生	女子	知っている	中間	私が印象に残っているのは、「他人にいじめられる権利、差別される権利はない。同じようにいじめる権利、差別する権利はない」という言葉です
1-3	小学生	女子	知っている	中間	子どもにも自由であること (権利)
1-4	小学生	女子	知っている	中間	人には「権利」と言うものがあって、何があっても他人がその権利をやぶっては、いけないということ
1-5	中高生	女子	知っている	中間	一番、印象に残ったのは子どもの権利のこと。思想の自由・発言の自由など
1-6	中高生	女子	知っている	中間	子どもの権利をうばってはいけない
1-7	中高生	女子	知っている	中間	「子どもだから」とかは関係なく、子どもには子どもの権利があります。だから自分はまだ子どもだから・・・と不安になることはないんですよ!
1-8	中高生	女子	知っている	中間	子ども会議という会議で、子どもが自由に意見を言っているということ。11月20日に「川崎子どもの権利の日」といなっていることが印象に残っています
1-9	小学生	男子	知っている	高	子どもにも色々な権利があることを知り、とても安心したことが印象に残っています
1-10	小学生	男子	知っている	高	子どもの権利は誰でも持っている
1-11	小学生	男子	知っている	高	子どもに権利があったという所
1-12	小学生	男子	知っている	高	色々な子どもの権利について、すごく勉強になりました
1-13	小学生	女子	知っている	高	子どもは好きなように (自由に) 生きる権利があるということ
1-14	小学生	女子	知っている	高	お互いに相手の権利を守りあっていかななくては、いけないということ
1-15	小学生	女子	知っている	高	私の一番大切だと思う権利を話し合う授業。いじめについて、差別について・・・他
1-16	小学生	女子	知っている	高	「子どもにも人権 (権利) はある」という事がかなり印象に残った
1-17	小学生	女子	知っている	高	子どもの権利について、子どもの権利は、とても大切だなと思った。権利は必要だなと思った

2-1	小学生	男子	聞いたことがある	低	子どもにも権利があるんだなあと思った。今までそんなに大切じゃないと思っていたけど、とても大切なものなんだと感じた
2-2	小学生	男子	聞いたことがある	低	子どもには、小・中と勉強を受ける権利が全員にある
2-3	小学生	女子	聞いたことがある	低	子どもの権利について
2-4	中高生	女子	聞いたことがある	低	総合や社会の先生の話で、この条例を聞いたときに「子どもの権利」について初めて考えました。あまり先生の話が難しく、あんまり印象に残ってません
2-5	小学生	男子	聞いたことがある	中間	子どもにもいろんな権利があると知りました
2-6	小学生	男子	聞いたことがある	中間	一人ひとりに権利があること
2-7	小学生	女子	聞いたことがある	中間	「子どもにも権利はあるんだよ」と言ってパンフレットを配ってくれた
2-8	小学生	女子	聞いたことがある	中間	「一人ひとりに権利がある」と言っていた
2-9	小学生	女子	聞いたことがある	中間	先生が言っていた、「子ども達には、それぞれ権利があるんだよ」と言う言葉が残っています
2-10	小学生	女子	聞いたことがある	中間	子どもの人権は、一人ひとり学ぶ権利、遊ぶ権利などがある事を知りました
2-11	小学生	女子	聞いたことがある	中間	子どもにも権利があること
2-12	小学生	女子	聞いたことがある	中間	人として権利以外に、子どもとしての権利もあるんだと思いました
2-13	小学生	女子	聞いたことがある	中間	子どもの私達にもちゃんとした権利があり、守られてると感じました
2-14	中高生	男子	聞いたことがある	高	子どもの権利について、とても熱く熱心に語っていた
2-15	中高生	男子	聞いたことがある	高	自由な暮らしが出来るなどの権利がたくさんあること
2-16	中高生	女子	聞いたことがある	高	子どもの権利についての話
2-17	中高生	女子	聞いたことがある	高	子どもは弱いから権利条約によって守られてるんだなあと思いました
2-18	中高生	女子	聞いたことがある	高	子どもの権利について